

平成 18 年 2 月 17 日
海上保安庁

問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部海洋調査課
大陸棚調査官 小川 正泰
電話 03-3541-3689

「大陸棚画定の技術的課題に関する専門家会議」の開催について
～ アジア太平洋諸国の大陸棚の限界延長の申請を支援 ～

海上保安庁は、大陸棚画定に関する技術的課題についてアジア太平洋諸国との情報交換を推進するとともに、これら諸国の大陸棚の限界延長の申請を支援するため、下記のとおり、「大陸棚画定の技術的課題に関する専門家会議」を開催します。

記

1. 開催期間及び場所

期間：平成 18 年 3 月 8 日（水）から 9 日（木）（2 日間）

場所：東京都中央区築地 5 - 3 - 1 海上保安庁海洋情報部

主催：海上保安庁、海洋政策研究財団 後援：外務省（予定）、日本財団

2. 講師 サザンプトン大学国立海洋学センター海洋法プロジェクトリーダー（イギリス）

ニューハンプシャー大学海洋図化センター長（アメリカ）

地球科学院海洋法プロジェクトリーダー（オーストラリア）

国連環境計画地球資源情報データベースセンター職員（調整中）

独立行政法人産業技術総合研究所職員、海上保安庁職員

3. 参加者 インドネシア、フィリピン、パプアニューギニア、フィジー、トンガ、パラオ、ソロモン諸島、ミクロネシア、モルディブ及び SOPAC（南太平洋応用地球科学委員会）事務局から合計 10 名を招聘。

4. 内容 先進国等から招く講師による「大陸棚画定に関する技術的課題」についての講演、及びモデル海域を用いた電子計算機による実践的な演習を実施。

5. 聴講（無料） 1 日目（8 日）の講演について聴講を希望される方は、事前に上記問い合わせ先までお申し込みをお願いします。なお、会場の収容人数の関係により、聴講をお断りせざるを得ない場合がありますので、予めご了承下さい。

6. その他

（1）開会式（約 30 分間）は、撮影が可能です。取材を希望される方は、8 日 9 時 35 分までに、海洋情報部庁舎 7 階エレベーターホールにお集まりください。

（2）上記参加者 10 名は、3 月 6～7 日に外務省及び国連大学により実施される国際シンポジウム「200 海里を超える大陸棚の外側の限界の設定に関する科学的及び技術的側面」にも参加し、同シンポジウムと連携することにより、本会議をより効果的なものとしします。

大陸棚画定の技術的課題に関する専門家会議

(Expert meeting on Technical matters regarding the outer Continental Shelf)

プログラム

主催：海上保安庁、海洋政策研究財団

後援：外務省（予定）、日本財団

1日目 3月8日（水）

0945 - 1015 オープニング

開会の挨拶

1015 - 1650 大陸棚画定の机上研究（デスクトップスタディ）に関する講演

1015 - 1130 デスクトップスタディをどのように行うべきか

サザンプトン大学国立海洋学センター海洋法プロジェクトリーダー リンゼイ・パーソン
(イギリス)

1130 - 1230 大陸棚画定に関する支援事業の実例の紹介

国連環境計画地球資源情報データベースセンター(調整中)

1230 - 1345 昼食

1345 - 1500 米国におけるデスクトップスタディについて

ニューハンプシャー大学海洋図化センター長 ラリー・メイヤー(アメリカ)

1520 - 1650 豪州におけるデスクトップスタディについて

地球科学院海洋法プロジェクトリーダー マーク・アルコック(オーストラリア)

2日目 3月9日（木）

0930-1500 GMT（汎用地図作製支援ツール）を用いた電子計算機による実践的な演習

1500 - 1530 大陸棚の限界に関する委員会へ提出する情報について

1530 - 1700 討論

1700 - 1715 閉会